

# 児童・生徒の学校・駅・塾までの車による送迎実態に関する研究

福岡大学工学部 学生会員 ○ 吉村 快 福岡大学工学部 正会員 辰巳 浩  
 福岡大学工学部 正会員 吉城 秀治 福岡大学工学部 正会員 堤 香代子

## 1. はじめに

子供の幼稚園や保育園への入園にはじまり、子供の成長に伴う行動範囲の拡大は、送迎といった新たな育児行為を親にもたらすものである。そしてこの送迎は、柴山<sup>1)</sup>も述べるように一定の時間に子供を移動させることを強く要請する育児行為であり、とりわけ共働き世帯やひとり親世帯にとっては決して小さくはない負担であろう。そこで本研究では、この親等による送迎の支援策に資する知見を得るために、第5回北部九州圏パーソントリップ調査を用いて、送迎交通の実態を明らかにすることを目的とする。その過程では、先述のように世帯構成によって送迎の状況は大きく異なることが想定されることから、世帯構成別に児童・生徒の送迎特性を明らかにしていく。

## 2. 使用データの概要

本研究では、第5回北部九州圏PT調査データ(509,632件)のうち、児童・生徒(幼児、小学生、中学生、高校生)のいる世帯を抽出した。さらに、そのうち「送迎」目的のトリップが含まれ、かつ親等と子供のそれぞれのトリップで自動車を利用されている世帯を抽出した。その結果、2,386世帯を抽出しており、小学生がいる世帯が最も多くなっている(図-1)。そして本研究では世帯構成の違いに着目するものであるが、その分類については職業の有無も考慮して図-2のとおりに分類している。そして、サンプル数が少なかった「ひとり親世帯+祖父母等」は除くこととし、同じくサンプル数の少ない「両親(共働き)+子+祖父母等」と「両親(片親有職)+子+祖父母等」については、両親の就業状況に違いはあるものの家庭内に祖父母といった育児をサポートし得る親族が同居する点は同じであることからサンプルを統合した。以下では、「ひとり親世帯」「両親(共働き)+子」「両親(片親有職

職)+子」「両親+子+祖父母等」の4分類に基づき、送迎特性を把握していく。

## 3. 分析結果

### (1) 児童・生徒の送迎者について

世帯別かつ送迎された子供の学年別に、家庭内においてその子供を送迎した人の続柄を整理した(図-3)。どの世帯構成でも母親の割合が高くなっており、子供の送迎は女性が担っていることがみてとれる。その割合については世帯構成の違いによって差がみられ、祖父母との同居している世帯では送迎のサポートを得られている実態もみてとれる。そして基本的に子供の学年を問わず先述のような状況にあるが、両親が共働きの世帯においては統計的な有意差が示されており、子供の学年が上がるにつれて父親の送迎割合が高くなる傾向が特徴としてみられる。

### (2) 児童・生徒の送迎時刻

図-4では、送迎トリップにおいて特に「送っていく」際のトリップの開始時刻について集計した結果を示している。まず、学年別に比較してみると午前中の送迎のピークは幼児8時台、小学生7~8時台、中学生7時台、高校生6~7時台となっており、学年が上がるにつれて送迎の開始時刻は早くなる傾向にある。高校生となると学校も遠くなり、それに伴う結果と考えられる。そして、小学生、中学生については午前の送迎とともに午後の送迎も発生しており、塾や習い事への送迎のためと考えられる。高校生についても同様に塾等へ通っているものと思われるが、高校から直接向かうなど子供自身で移動しているため、午後の送っていくトリップ

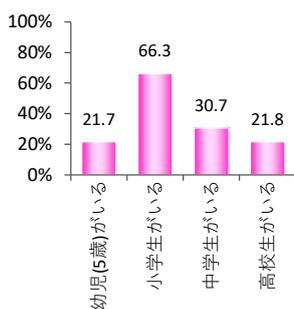


図-1 子供の割合

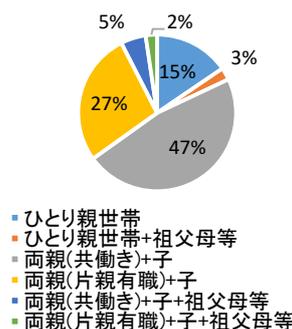
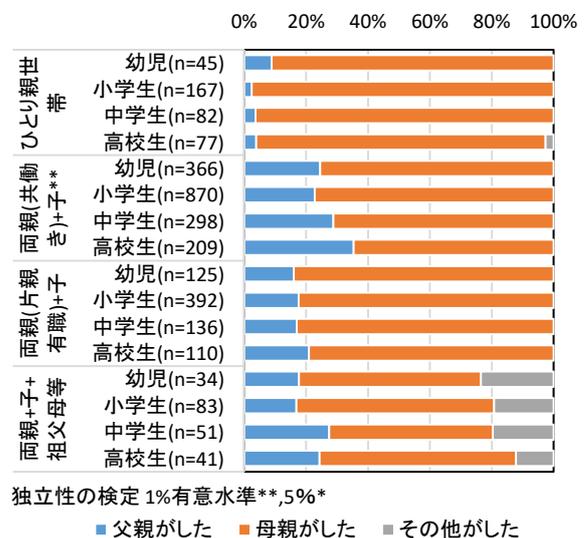


図-2 世帯構成の割合



独立性の検定 1%有意水準\*\*, 5%\*

■ 父親がした ■ 母親がした ■ その他がした

図-3 児童・生徒の送迎者構成比

はみられないものと考えられる。世帯構成別の違いをみると、祖父母と同居世帯は他の世帯と比してピーク時間帯が若干遅いことがみてとれる。祖父母の職の有無を考慮した集計はできていないが、孫の送迎を行える祖父母は基本的に時間の都合がつきやすく、学校の開始時刻にあわせた送迎ができているためと考えられる。反対に他の世帯は親の通勤にあわせた送迎になっているため早い時刻となっているものと考えられ、独立性の検定では「幼児」と「小学生」の集計結果において統計的な有意差が示されており、幼児と小学生を送迎する世帯は特にその傾向が強いといえる。

(3) 学校・駅・塾への送迎時刻

本節では、目的地別に「送っていく」際のトリップの開始時刻について集計した(図-5)(ただし、ここでは学年別の集計は行っていない)。学校と駅への送迎時刻について独立性の検定を行った結果を比較すれば、学校については統計的な有意差がみられたものの、駅については統計的な有意差が示されず、世帯構成の違いによる差はみられな

かった。駅まで送迎してもらっている子供は総じて遠方の学校に通学しており、通学時間を考慮すると世帯構成に関係なく早い時間帯に駅まで送迎の必要がある。祖父母がいる世帯であっても他の世帯と同様早朝に送迎せざるを得ないため、統計的な有意差がみられなかったものと考えられる。塾(習い事)への送迎については14~15時台から始まり、16~17時台がピークとなっていた。

6. まとめ

本研究では、第5回北部九州圏PT調査を用いて、児童および生徒の送迎実態について分析した。その結果、幼児や小学生がいる世帯が特に支援の対象となり得ること等を明らかにしている。今後の課題としては、第5回北部九州圏PT調査ではトリップ時の同伴状況を尋ねていることから、その項目を使用した集計を行うことでより詳細な送迎に関わる移動実態を明らかにできるものと考えている。

参考文献

1) 柴山真琴: 共働き夫婦における子どもの送迎分担過程の質的研究, 発達心理学研究, Vol.18, No.2, pp.120-131, 2007

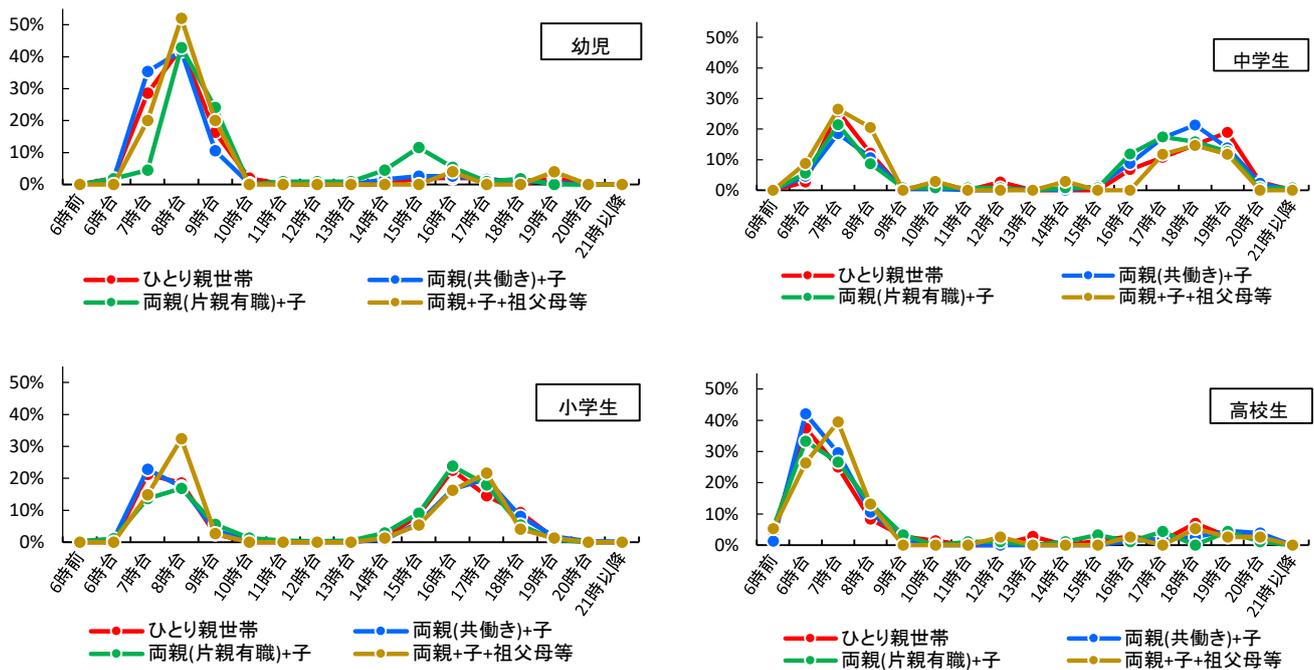


図-4 児童・生徒の送迎時刻(送り)

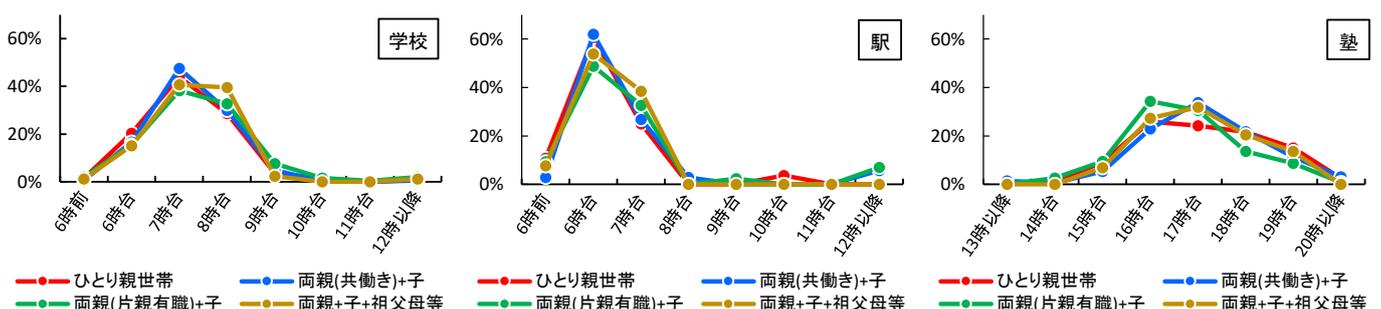


図-5 学校・駅・塾への送迎時刻(送り)